

# 令和6年度第1回 益田市障がい者自立支援協議会 全体会次第

日時：令和6年10月16日（水）10:00～11:00

会場：益田市役所 大会議室

- 1 開会
- 2 福祉環境部長あいさつ
- 3 副会長あいさつ
- 4 令和6年度益田市障がい者自立支援協議会の概要及び専門部会等の所属について  
【資料1】
- 5 部会長の指名について
- 6 報告事項  
相談支援会議の上半期活動状況について  
【資料2】
- 7 議題
  - (1) 第6期益田市障がい福祉計画、第2期益田市障がい児福祉計画の振り返りについて  
【資料3】
  - (2) 第6期益田市障がい者基本計画、第7期益田市障がい福祉計画、第3期益田市障がい児福祉計画の推進について  
【資料4】
- 8 その他
- 9 閉会

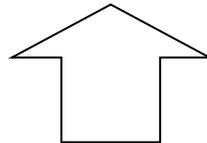
## 益田市障がい者自立支援協議会 運営図

### ●全体会 (開催頻度：年2回程度、構成員：協議会委員・市)

- ・地域課題を共有し、専門部会へ協議を指示
- ・施策提案
- ・計画の推進
- ・計画の進捗管理

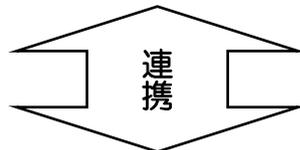


- ・施策提案  
(行政へ)
- ・施策実施協力依頼  
(関係機関等へ)



### ●運営会議 (開催頻度：随時、構成員：会長・副会長・部会長・副部会長・市)

- ・課題整理・分析
- ・専門部会・全体会の運営管理



### ●専門部会 (開催頻度：随時、構成員：各事業所等現場レベル・協議会委員)

- ・課題別に具体的な検討
- ・検討結果を全体会へ報告

### ●相談支援会議 (開催頻度：毎月、構成員：相談支援事業所・基幹相談支援センター・市)

- ・情報共有
- ・事例検討
- ・個別の課題検討

### ●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム (コア会議)

(開催頻度：2～3回/年、構成員：松ヶ丘病院・基幹相談支援センター・益田保健所・市)

# 令和6年度 益田市障害者自立支援協議会委員 専門部会

## ■就労・社会参加支援部会 部会長： 副部会長：

団体名	委員部会所属
益田障がい者就業・生活支援センター エスポア	所 長 中島 強志
NPO法人きずな ひまわり家	所 長 隅田 典宏
益田公共職業安定所	統括職業指導官 狩野 秀夫
株式会社 ジャスティス・ジャパン	代表取締役 山口 育美
益田地域家族会	理 事 澤江 功一
益田地域医療センター 医師会病院	作業療法士 川崎 訓明
サポートセンター FOH	施設長 檜谷 佳誉子
島根県西部発達障害者支援センター ウインド	野村 哲也
島根県立益田養護学校	校 長 落合 由美

団体名	氏名
益田保健所 保健師	

事務局

障がい者福祉課	

## ■障がい福祉人材育成部会 部会長： 副部会長：

団体名	委員部会所属
障がい者支援施設 ラポール宝生苑	施設長 牧原 直也
相談支援事業所 ふらっと	管理者 池永 綾子
相談支援事業所 ほっと	管理者 福原 直美
島根県益田児童相談所	判定保護課長 玉木 秀憲
西部島根医療福祉センター あゆっこ益田	主 任 古川 和子

団体名	氏名
益田保健所 保健師	
障がい者福祉課	

事務局

基幹相談支援センター	
------------	--

## ■障がい理解促進部会 部会長： 副部会長：

団体名	委員部会所属
益田市基幹相談支援センター	主任生活相談員 野村 健
益田市身体障害者福祉協会	副会長 安部 利一
益田市障害者福祉センター あゆみの里	施設長 野村 長典
正光会 松ヶ丘病院	統括部長 枡本 典子
障がい者支援施設 希望の里	施設長 望月 浩幸
地域生活支援センター ポケットプラザ	所 長 後藤 美穂子
益田圏域難病患者・家族連絡会	共同代表 水上 真一
益田市社会福祉協議会	地域福祉部長 中島 克仁
益田市民生児童委員協議会	副会長 寺戸 弘明

団体名	氏名
益田保健所 保健師	

事務局

障がい者福祉課	

令和6年度 益田市障がい者自立支援協議会 相談支援会議 上半期 振り返り

日程	1. 確認事項	2. 協議・伝達事項	3. 新規ケース	4. 取り組み	5. その他
4/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の障がい者福祉課の体制</li> <li>あゆっこ益田について</li> <li>令和5年度下期事業所訪問(ミニ事例検討)報告</li> <li>今年度研修スケジュール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入退院を繰り返す、主治医との連携</li> <li>0歳の難病、親の意向に寄り添い、関係機関と情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会：島根県ひきこり支援センター地域拠点「いっぽ」の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報酬改定、加算に関することの確認</li> </ul>
5/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者福祉課担当者あいさつ</li> <li>サービスの支給決定について確認</li> <li>あゆっこ益田について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外から来た、男性への依存あり、課題が複合化している</li> <li>一般就労を考えると意向あり、以前も音信不通になった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討：『絵の仕事で独立したい』という目標あり、いろいろな人格を持ちながら生活している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定調査の研修日程確認</li> <li>重層的な相談支援体制の話について確認</li> </ul>
6/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭庁より、医療機関との連携に関する取り組みについての情報提供書のサンプルが示された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットの詐欺被害</li> <li>感情表出がない</li> <li>ゴミ屋敷</li> <li>世帯での複合化した課題</li> <li>医療的ケア児、保育所の受け入れ</li> <li>母は本人が独りになった時が心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会：重層的な相談支援体制についての話、意見交換(福祉総務課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>癒しの空間ハート、フロムハート</li> </ul>
7/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパー事業所の利用について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教二世</li> <li>計画相談・ヘルプ受け入れが困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討：収支にあった生活をどのように理解してもらうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内のコロナ感染について</li> </ul>

8/19	・特に意見なし	・安心生活支援事業について ・ニューズスタイルケア山口について	・兄弟の支援、障がい の理解 ・緊急時の対応 ・継続ケース、就労 支援で調整	・事例検討：障がいの特 性により介護保険へ移行 が難しい	・浜田のグループホー ムについて ・市内のコロナ感染に ついて
9/18	・共同生活ホームの体験部屋が 居室へ変更となる。 ・地域移行について、基幹が障 害者支援施設と医療機関へ現状 の聞き取りを行っていき、情報 共有していく。	・GHふぁみりえの紹介 ・個別避難計画	・障がいの特性もあ り、経済・就労面で の課題 ・就労への取り組み について、生活リズ ムの整え方	・上半期の振り返り：介 護保険との連携、事例検 討を行った半年後、協議 伝達事項で報告する、社 会資源の不足及び計画相 談対応について確認。	・10/16 自立支援協議会 開催 ・市内事業所の状況確 認

#### 4. 事例検討・意見交換

日程	年代	障害種別	事例内容・意見交換	担当	実施内容（振り返り・事例検討後の状況）・地域課題など
4/18			ひきこもりについて現状報告、令和6年 度の取り組み、心体相研修報告、意見交 換など	いっほ	・小原センター長が出席、いっほの説明と質疑などを行う。 ・医療の面からアプローチできるのが強み。 ・開所して3年、まだまだ道半ばである。 ・社会参加がゴールではない。 ・家族、本人が動かない場合、個人情報などもあり、同意なしでの介入 ができない、情報共有が課題。
5/16	10代	発達・精神	10代男性、発達・精神のケース、『絵の 仕事で独立したい』という目標あり、い ろんな人格を持ちながら生活している。	ラポール	・人格かい離、人格の集約や少なくなるといい、就労B型もやめて5～ 6名になっている。過ごす場として、まずだハッチに見学へ行き、グル ープホームもあらたに相談、障がい年金の手続きを行っている。 ・課題、自分がしたいことが増えている（モデルや手がけた物が世に出 ることを希望）が、現実とのすり合わせが必要。 ・まずだハッチでも絵について相談したい。前のめりとなってしまいうの で、情報も調整しながら対応している。

6/20			重層的な相談支援体制についての話、意見交換など	福祉総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉総務課吉川さん、渡辺さんが出席、重層的支援体制整備事業概要、益田市の取り組み状況の説明、意見交換を行う。</li> <li>ひとまとまる会議について</li> <li>「ケース対応に苦慮して、助言などが欲しい」「支援拒否の困難さを感じている」等の意見あり。</li> <li>支援者が孤立しないようチームとして支援できるよう対応していく</li> <li>「どう関わっていいか？」次の展開が見え、アイデアが出る。</li> <li>支援者支援が重要、シートから見えてこない課題もある。</li> <li>主治医にも相談した、関係機関と振り返りした方がいいとコメント。</li> <li>保佐人、グループホームスタッフ、本人と話をする予定。</li> <li>本人とはその都度、定期的に対応する。関係機関と共通認識でお金がなくなる。</li> <li>(課題) 最近ワイヤレスイヤホンを買った、昨夜なくなった訴えあり。支援者が探し、警察にも連絡した。収入が少ない中でなぜ買った？少ない中でのお金の使い方について本人と話をしているが、そういう買い物をする。本人から「お金が少ない、どうしたらいいか」と相談もあった。</li> <li>本人と面談をする予定。今後、会議の中であげさせてもらい、振り返りができるといい。支援のことでも模索の状況もある。</li> </ul>
7/18	30代	知的・精神	収支にあった生活をどのように理解してもらうか？本人の希望、外の作業も増やしていきたい、体調管理をきちんとしていきたい。	そら	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行は先延ばしとなった、介護保険とやり取りをしている。</li> </ul>
8/19	60代	聴覚・視覚	最近、手話や筆談でのやり取りが難しくなり、触手話を使うことが多くなった。本人の希望、不安はあるけど家で生活したい。旅行へ行きたい。(兄をおいていけない)	ほっと	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険との連携の必要性。</li> <li>事例検討を行った半年後、協議伝達事項で報告していく。</li> <li>社会資源の不足及び計画相談対応の課題について確認していく。</li> </ul>
9/18			上半期の振り返り	基幹	

第6期市町村障がい福祉計画・第2期市町村障がい児福祉計画進捗管理 (R5年度)

※評価欄 (A:目標を上回った、B:概ね目標どおり、C:目標を下回った、D:目標を大きく下回った) を記入  
 ※現状分析・課題欄には、計画策定時からの状況の変化や計画達成に向けた取組課題などを記入

1. 福祉施設の入所者の地域生活への移行

(単位:人)

施設入所者数						地域生活移行者数		<参考>
R1年度末 時点 ①	R5年度末 時点 ②	目標 (R5年度末) ①-②	R05年度実績			目標 (R5年度末) ⑤	R05年度 実績 ⑥	新規入所者 (R05年度) ⑦
			R5.3.31 ③	R6.3.31 ④	削減人数 ①-④			
85	83	2	84	85	0	5	0	7
評価		現状分析・計画達成のための課題						
C		在宅サービスの量的・質的充実が必要						

2. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

(単位:回)

	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
保健、医療、福祉関係者による協議の場の設置	1	1	B	保健、医療、福祉関係者による協議の場は設置できたが、にも包括の取組に至らないことが多く、次年度から益田市自立支援協議会内に協議の場を設置することとした。

精神障がい者の各サービス利用者数

(単位:人)

	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域移行支援	0	0	B	対象者の高齢化のため、病院から高齢者向け施設等への移行なるケースが多く、なかなか実績がない。
地域定着支援	0	0	B	対象者の高齢化のため、病院から高齢者向け施設等への移行なるケースが多く、なかなか実績がない。
共同生活援助	0	28	A	GHの空きがない状況もあり、経年的に人数に変化がない。
自立生活援助	0	0	B	益田市としてサービス実施がない。

3. 地域生活支援拠点等の整備

※設置数を記載

(単位:箇所)

	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域生活支援拠点等	8	8	B	面的整備にて実施済
	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域生活支援拠点等が有する機能の充実(検証・検討)	1	1	B	益田市障がい者自立支援協議会相談支援会議で状況の把握・共有・拡充について検討。

4. 障がい児支援の提供体制の整備等

※設置数を記載

(単位:箇所)

	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
児童発達支援センター	1	0	D	関係機関と連携して設置のための話し合いを進めていく
保育所等訪問支援	1	2	A	新規で事業所設置
主に重症心身障がい児を支援する	児童発達支援事業所	1	B	新規で事業所設置
	放課後等デイサービス	1	B	新規で事業所設置
医療的ケア児のための協議の場の設置	設置済	設置済	B	引き続き協議の場を設ける

(単位:人)

	目標 (R5年度末)	R05年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
医療的ケア児支援のためのコーディネーターの設置	5	2	D	目標未達成のため、引き続きコーディネーター確保に努める。

## 5. 障害福祉サービス等見込量

### (1) 訪問系サービス

	R05年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	時間	人	時間	人	時間	人		
居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援	1,206	130	830	96	68.8%	73.8%	C	事業所の休止等に伴い、実績が伸びていない。

### (2) 日中活動系サービス

	R05年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人日	人	人日	人	人日	人		
生活介護	3,579	216	3,086	181	86.2%	83.8%	B	見込み通り実施できた。
自立訓練（機能訓練）	0	0	0	0	—	—	B	益田市としてサービスを実施していない。
自立訓練（生活訓練）	80	7	19	4	23.8%	57.1%	C	他のサービスへの移行のため、人数が減少。
就労移行支援	60	6	2	5	3.3%	83.3%	B	直B利用の方のみの利用となっている。
就労継続支援（A型）	850	45	699	42	82.2%	93.3%	B	見込み通り実施できた。
就労継続支援（B型）	3,114	155	2,389	155	76.7%	100.0%	B	見込み通り実施できた。
就労定着支援	0	2	1	1	0.0%	50.0%	C	サービス終了となり昨年度より2名減。
療養介護	/	20	/	18	/	90.0%	B	入退所に变化なく、見込み通り。
短期入所（福祉型）	220	34	155	45	70.5%	132.4%	A	サービス決定はしているが、利用がないケースもある。
短期入所（医療型）	10	2	7	1	70.0%	50.0%	C	益田市内の医療機関では実施なし。

### (3) 居住系サービス

	R05年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人	定員数	人	定員数	人日	人		
自立生活援助	0	/	0	0	—	/	B	市内に事業所がなく、今後検討が必要。
共同生活援助（グループホーム）	100	/	113	112	113.0%	/	B	退所者が少なく、新規入所が難しい状況。
施設入所支援	87	/	85	/	97.7%	/	B	退所者が少なく、新規入所が難しい状況。

### (4) 相談支援

	R05年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み（人）	実績（人）	達成率		
計画相談支援	160	137	85.6%	B	見込み通り実施。
地域移行支援	5	0	—	C	サービスの必要性について検討が必要。
地域定着支援	4	1	25.0%	C	サービスの必要性について検討が必要。

### (5) 障がい児を対象としたサービス

	R05年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人日	人	人日	人	人日	人		
児童発達支援	96	24	431	46	449.0%	191.7%	A	支援の必要な児童が増加した。
医療型児童発達支援	0	0	0	0	—	—	C	益田市での実施がない。
放課後等デイサービス	1,398	153	1,616	115	115.6%	75.2%	B	サービスの利用は十分であるが、人数が目標未達成。今後、児童発達支援の対象者が放デイを利用すれば目標達成に近づくと考える。
保育所等訪問支援	7	7	0	0	—	—	D	1つの事業所はサービス休止、もう1つの事業所はサービス利用申請がなかった。
居宅訪問型児童発達支援	0	0	0	0	—	—	C	益田市での実施がない。
障害児相談支援	/	46	/	162	/	352.2%	A	支援の必要な児童が増加した。

6. 相談支援体制の充実・強化等

		R05年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		見込み	実績	達成率		
総合的・専門的な相談支援(有:1 無:0)		1	1	100%	B	地域の相談支援体制の中核を基幹相談支援センターが担っている。
地域の相談支援体制の強化	地域の相談支援事業者に対する訪問等による専門的な指導・助言件数	有	12	/	B	益田市障がい者自立支援協議会相談支援会議を活用して取組を実施
	地域の相談支援事業者の人材育成の支援件数	有	12	/	B	
	地域の相談機関との連携強化の取組の実施回数	有	12	/	B	

7. 障害福祉サービスの質を向上させるための取組

		R05年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		見込み	実績	達成率		
障害福祉サービス等に係る各種研修の活用(参加人数)		0	0	—	B	人数把握は行っていない。
障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果の共有(有:1 無:0)		0	0	—	B	相談支援事業所と連携がとれているため実施予定なし。

8. 地域生活支援事業

	単位	R05年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		計画	実績	達成率		
1 理解促進研修・啓発事業	(有=1無=0)	1	1	100.0%	B	障害者差別解消法についての講演会実施。参加者90名
2 自発的活動支援事業	(有=1無=0)	1	0	—	C	取組実績なし。今後の取組として要検討。
3 相談支援事業						
(1) 障害者相談支援事業(実施箇所数)	箇所	5	5	100.0%	B	
基幹相談支援センターの設置	(有=1無=0)	1	1	100.0%	B	
(2) 基幹相談支援センター等機能強化事業	(有=1無=0)	1	1	100.0%	B	
(3) 住宅入居等支援事業	(有=1無=0)	0	0	—		社会福祉協議会が実施する「入居債務保証支援事業」で同様の支援を実施している。
4 成年後見制度利用支援事業(実利用者数)	人	3	0	—	C	ニーズが少ない。
5 成年後見制度法人後見支援事業	(有=1無=0)	1	0	—	C	ニーズが少ない。
6 意思疎通支援事業						
(1) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業(実利用件数)	件	170	245	144.1%	A	
(2) 手話通訳者設置事業(実設置者数)	人	4	2	50.0%	C	2名のみ変化なし。次年度1名増の予定。
7 日常生活用具給付等事業						
(1) 介護・訓練支援用具	件	4	0	—	C	
(2) 自立生活支援用具	件	6	7	116.7%	A	
(3) 在宅療養等支援用具	件	7	5	71.4%	B	
(4) 情報・意思疎通支援用具	件	10	9	90.0%	B	
(5) 排泄管理支援用具	件	1,050	1,085	103.3%	B	
(6) 居宅生活動作補助用具(住宅改修費)	件	1	2	200.0%	A	
8 手話奉仕員養成研修事業(講習修了者数)	人	30	12	40.0%	C	講習者は13名だが、要件を満たさなかったため12名が修了となった。研修への参加者が少ないのは講習期間が長いことも一因と考える。
9 移動支援事業	人	75	54	72.0%	B	
(上段:実利用者数、下段:延べ利用時間数)	時間	1,850	2,844	153.7%	A	
10 地域活動支援センター	箇所	2	2	100.0%	B	現体制では、新たな受け入れが困難な状況にある。
(上段:実施箇所数、下段:実利用者数)	人	130	40	30.8%	C	

頁数	課題	理由
P27	バリアフリー社会の実現	障がいに対する理解の促進、情報・コミュニケーションが重要。
P28(1)	障害者差別解消法や合理的配慮について	多くの方に届くような啓発活動は引き続き必要と感じます。
P31(3)	市民を対象とした講演会等の開催による福祉教育の推進	市内で開催はされていますが、数が少ないのではと感じています。毎年、継続しても開催しつづけることが必要。
P33(3)	災害時対応、個別支援計画等について	
P33(3)	災害時に迅速に障害者が避難できる地域づくり	災害時に障害者が助かるかどうかのカギは地域にあるため。
P33(3)	緊急時、災害時の体制整備	災害時安全確保体制の整備について、福祉避難所に直接避難できる体制づくりや、特に医療的ケアは必要な方が確実に医療を受けられる避難先の確保を検討してほしい。
P33(3)	緊急時、災害時の体制整備	障がいの特性により、どういうことが課題か現状把握が必要と考えます。
P37,P54(5)	障がい児支援の提供体制の整備等	重度心身障がい児、医療的ケア児、行動障がいのある児童への適切な援助、支援が行われる体制の整備が必要と思われるため。
P37,P54(5)	障がい児支援対策・子育て支援	対象者ニーズが高まっている。
P37,P72	福祉人材の不足（無資格含む）	資格の有無に関わらず、募集しても来ない。働いている人も若い人が少ない為、人事配置や事業内容に苦慮する。
P37,P72	児童発達支援・放課後デイサービス、保育所等訪問支援事業所の職員の人材確保と質の向上のための取り組み	研修会、福祉で働く人へ向けたパンフレットなど、スタッフの質の向上、離職の歯止め等を目的として取り組んでいます。今後も継続して考えていかないと考えます。
P37,P72	居宅介護支援体制（時間外、男性不足等）	
P37,P72	人材確保（事業所）	相談支援会議や重心、聴覚に携わるスタッフ、もしくは事業所が不足、ギリギリの状態であるため、長期的な目標（視点）を持ち、取り組むことも必要と考えます。
P39	地域生活支援体制の充実・多様なサービス提供と支援の充実	福祉サービスの充実により、地域で自立した生活が出来るよう、送れるよう支えることが必要。
P40(2)	地域生活の充実	障害者が安心して暮らすための地域づくりの推進をすすめる必要がある。そのためには訪問型を中心としたサービスの実践や地域住民の障がい理解の促進を含め普及啓発活動が重要であるため。
P41(1)	必要な医療が受けられる体制づくり	ALS等の神経難病患者で、人工呼吸器装着や長期療養が必要になった方の入院・入所先がなく、市外へ流出している。住み慣れた地域で最後まで生活できる医療（介護）提供体制を検討してほしい。
P43	自立と社会参加の促進	学校を卒業後、一度は就労したものの、辞職してしまったり、事業所に行けなくなったりする例があります。働くことに向かえなくなったりした時の行き場、受け皿といった観点での市の状況を知りたいと思います。もし不十分であれば、整えていくことはできるものではないでしょうか。
P43	自立と社会参加の促進	雇用・就労の場面ではお手伝い出来るかと思えます
P43	保健・医療・福祉・教育・保育・就労分野での連携	連携が不十分を感じる時、どこまで介入すべきかなど不明確だと感じる所はあります。
P52(3)	地域生活支援拠点の整備について	その他の機能の整備についてすすめていない。緊急時の対応についてのふり返り、共有ができればよいかと。
	生活支援	生活する障がい（不自由さ）を有する人は、個々の不安・心配事を抱いても、行政が縦割りで事務的処理（対応）で総合的に対応がないので、きめ細かな対応が出来かねている。従い、市職員が手帳などの申込み・相談を受けた際に、「他に心配事はありますか？」という対応の配慮があるかないかで大きく違ってくる。市職員教育が必要である。
	自死対策（ひきこもり・未就労）	
	地域で障がいのある方の余暇充実に向けての取組	部会と支援団体との連携や協働も必要ではないかと感じました。部会だけでは難しいのではないかと。

令和6年度益田市障がい者自立支援協議会委員名簿

所 属	職 名	委員名	備考
益田市基幹相談支援センター	主任生活相談員	野村 健	
地域生活支援センター ポケットプラザ	施設長	後藤 美穂子	
益田市障害者福祉センター あゆみの里	施設長	福原 直美	
相談支援事業所 ほっと	管理者		
障がい者支援施設 ラポール宝生苑	施設長	牧原 直也	
相談支援事業所 ぷらっと	管理者	池永 綾子	
サポートセンター FOH	施設長	檜谷 佳誉子	
西部島根医療福祉センター あゆっこ益田	主任	古川 和子	
株式会社 ジャスティス・ジャパン	代表取締役	山口 育美	
NPO法人きずな ひまわり家	所長	隅田 典宏	
益田市社会福祉協議会	地域福祉部長	中島 克仁	
障がい者支援施設 希望の里	施設長	望月 浩幸	
益田障がい者就業・生活支援センター エスポア	所長	中島 強志	
島根県西部発達障害者支援センター ウインド	副センター長	石田 英巳	欠
正光会 松ヶ丘病院	統括部長	枡本 典子	
益田地域医療センター 医師会病院	作業療法士	川崎 訓明	欠
島根県益田保健所	所長	梶浦 靖二	欠
益田市民生児童委員協議会	副会長	寺戸 弘明	
益田市身体障害者福祉協会	副会長	安部 利一	
益田公共職業安定所	統括職業指導官	狩野 秀夫	
島根県益田児童相談所	判定保護課長	玉木 秀憲	欠
島根県立益田養護学校	校長	落合 由美	
益田市手をつなぐ育成会	監査	露口 慎二	欠
益田地域家族会	理事	澤江 功一	欠
益田圏域難病患者・家族連絡会	共同代表	水上 真一	